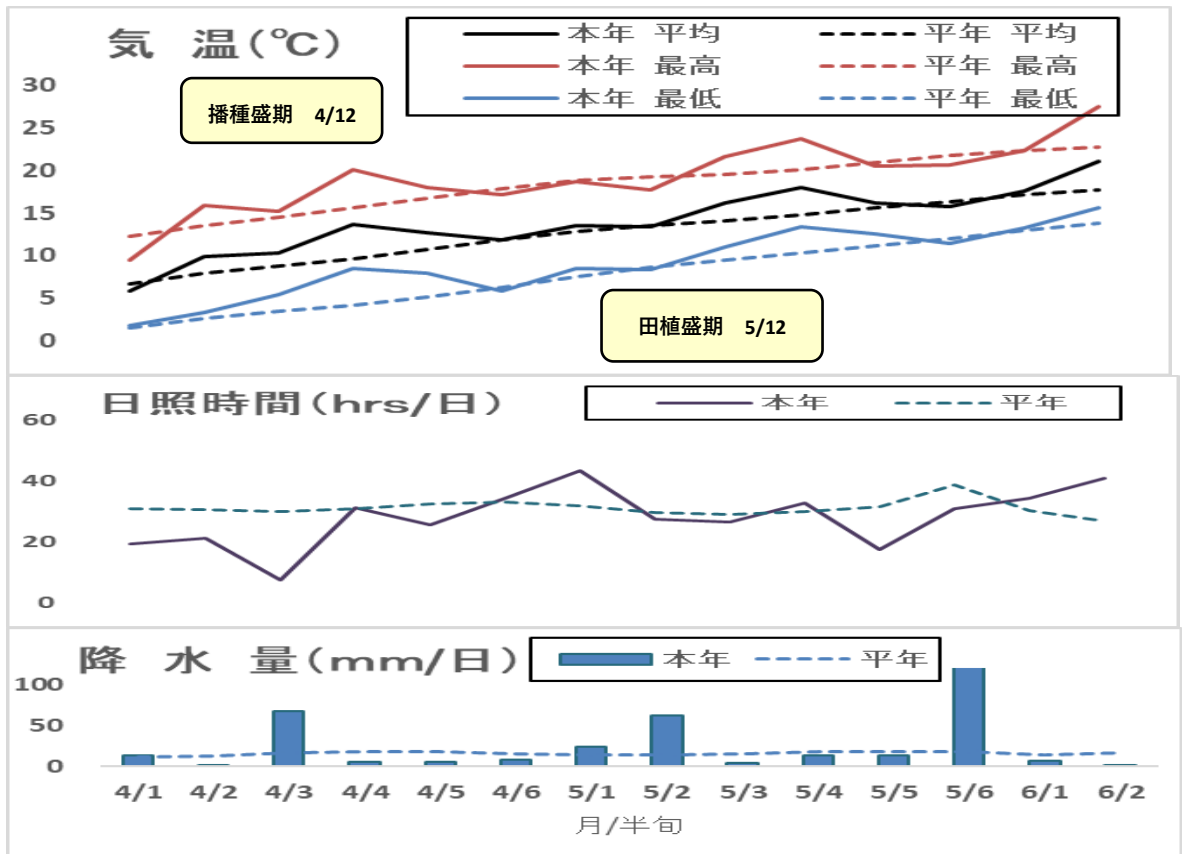


～5月中旬～下旬植えは やや茎数不足 適正な水管理を！～

1 令和7年の気象経過(古川アメダス)と東北地方の1か月予報



◆6月12日発表 東北地方の1か月予報(6月14日～7月13日までの天候見通し)【気象庁ホームページより】

- ・平年と同様に曇りや雨の日が多い。期間の前半は、気温がかなり高くなる見込み。
- ・向こう1か月の気温は、高い確率 80%, 平年並み若しくは低い確率 10%。
- ・降水量は、東北太平洋側では、多い若しくは少ない確率 30%, 平年並みの確率 40%。
- ・日照時間は、東北太平洋側では、多い若しくは少ない確率 30%, 平年並みの確率 40%。

気温、降水量、日照時間の各階級の確率 (%)			
気温	東北地方	向こう1か月 06/14～07/13	10 10 80
		1週目 06/14～06/20	10 10 80
		2週目 06/21～06/27	10 20 70
		3～4週目 06/28～07/11	10 30 60
降水量	東北日本海側	向こう1か月 06/14～07/13	20 40 40
	東北太平洋側	向こう1か月 06/14～07/13	30 40 30
日照時間	東北日本海側	向こう1か月 06/14～07/13	40 30 30
	東北太平洋側	向こう1か月 06/14～07/13	30 40 30

■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

2 生育状況(6月10日現在)

(1) 作況試験 5月9日植え ひとめぼれ(古川農業試験場)

- ・草丈は, 24.9cm で平年比 104%である。
- ・茎数は, m²当たり 325 本で平年比 127%である。
- ・葉色(葉緑素計の測定値)は, 43.5 で平年より高い。
- ・茎数は平年より多く, 葉数は 6.6 枚で生育ステージは概ね平年並みである。

移植日	草 丈			茎 数			葉 色			葉 数		
	本 年 (cm)	前年比 (%)	平年比 (%)	本 年 (本/m ²)	前年比 (%)	平年比 (%)	本 年 (GM値)	前年差 (GM値)	平年差 (GM値)	本 年 (枚)	前年差 (枚)	平年差 (枚)
5月9日	24.9	106	104	325	130	127	43.5	4.1	3.7	6.6	0.4	0.3

(2) 生育調査ほ(古川農業試験場及び各農業改良普及センター)

- ・品種別の草丈は 27～30cm 程度で, 平年比 100～110%である。
- ・茎数はm²当たり 162～179 本で, 平年比 87～94%である。
- ・葉色は 36.2～37.0 で, 概ね平年並みである。

品種名	草 丈			茎 数			葉 色		
	本 年 (cm)	前年比 (%)	平年比 (%)	本 年 (本/m ²)	前年比 (%)	平年比 (%)	本 年 (GM値)	前年差 (GM値)	平年差 (GM値)
ひとめぼれ	29.5	107	110	162	101	94	37.0	-1.3	-0.6
ササニシキ	26.9	99	102	179	113	87	36.2	0.9	0.2
つや姫	27.6	94	100	162	86	94	36.2	-0.3	-0.7

- ・移植時期別(ひとめぼれ)の草丈は 26.7～32.5cm で, 平年比 100～121%である。
- ・茎数は 103～260 本/m²で, 平年比 83～127%である。
- ・葉色は 33.3～42.2 で, 概ね平年並みである。

●5月中旬植え及び下旬植えは, 茎数が少なく葉色も低い傾向にある。これは, 5月下旬の低温・寡照により, 生育抑制を受けたためと考えられる。

移植時期	草 丈			茎 数			葉 色		
	本 年 (cm)	前年比 (%)	平年比 (%)	本 年 (本/m ²)	前年比 (%)	平年比 (%)	本 年 (GM値)	前年差 (GM値)	平年差 (GM値)
5/1～9	32.5	120	121	260	102	127	42.2	-0.2	3.5
5/10～19	26.7	96	100	138	114	87	36.4	-0.3	-0.8
5/20～31	28.1	122	115	103	90	83	33.3	-3.0	-0.3

(3) A 農協の生育調査結果(6月9日調査, ササニシキ・ひとめぼれ等展示ほ結果より)

- ・草丈は 29～30cm 程度で, 平年比 91～104%である。
- ・葉数は 5.2～6.0 枚で, 平年差-0.5～-0.8 枚である。
- ・茎数は 95～180 本/m²で, 平年比 71～87%である。

【まとめ】

- 草丈は概ね平年並みだが, 葉数の展開が平年よりやや遅い。生育ステージは2～5日程度の遅れと推測される。
- 葉数の展開が遅いこと, 5月下旬の低温・寡照により, 分けつが進まず茎数が平年より少ない。特に, 中旬植え・下旬植えの茎数が少ない。ただし, 6～7葉が展開している稲は分けつが始まっている。

3 今後の管理

(1) 水管理

- ・分げつが少ないほ場では、低温時には水深 5～6cm の深水、それ以外は水深 2～3cm の浅水として、水温・地温の上昇を図り、生育量(分げつ)の確保に努める。
- ・稲わらなど、未熟有機物が多く施用されているほ場では、硫化水素などの有害なガスが発生しやすい。特に、まとまった降水により長期間にわたって湛水状態にあるほ場では、その傾向が強いので、一時落水して酸素を供給するとともにガス抜きを図る。その後は、浅水と自然落水の繰り返しによる間断かん水を行う。

(2) 病虫害防除【宮城県 病虫害防除所ホームページより】

① いもち病

- ・宮城県病虫害防除所が公表した「発生予報第3号(6月4日発行)」によれば、葉いもちの「発生開始期は平年並みの7月第1半旬」で、発生量は「平年並み」と予想されている。
- ・6月10日の調査時点でも、残苗が放置されているほ場が散見される。まだ残苗での発病は確認されていないが、本田での発生源になるので速やかに処分する。
- ・「葉いもちの感染好適条件の出現状況(BLASTAM)」による推定では、6月2日までに感染好適条件の広域発生は、まだ確認されていない。
- ・例年、東北地方は6月中旬頃に梅雨入りするので、今後、曇雨天の続く日が多くなる。箱施用剤による防除を行っていない場合は、水面施用剤を防除適期(6月中～下旬)に散布する。

② 斑点米カメムシ類

- ・畦畔や雑草地・牧草地等のイネ科雑草は、斑点米カメムシ類の増殖源となる。
- ・計画的に草刈りを行い、カメムシ類の増殖を抑制する。
- ・水田内にイヌホタルイやノビエ等が多く残草すると、アカスジカスミカメが侵入・増殖して被害が助長される傾向にある。残草が目立つ場合は、中期・後期除草剤で追加防除を実施する。
- ◆大型の斑点米カメムシ類「クモヘリカメムシ(体長 15～17mm)」が、県南部から北部でも発生が確認されている。今後の発生拡大に注意する(大型のカメムシ類は、籾の内外穎のどの部分からでも貫通して吸汁する)。なお、クモヘリカメムシの画像については、宮城県病虫害防除所のホームページを参照されたい。

4 乾田直播栽培における今後の管理

- ・A農協の展示ほにおける6月9日現在の調査結果は、草丈が 11～27cm、葉数が 2.7～6.5 葉、茎数が 115～178 本/㎡(前年比 59～84%)である。前年より茎数が少ない。品種別では、発芽しやすいササニシキは葉数の展開が速く、茎数も多い。ひとめぼれは、その逆である。
- ・4月～5月の降水量が比較的多く、播種作業が遅くなったほ場も見られるが、全般に出芽はそろっている。ただし、移植栽培と同様に5月下旬の低温・寡照により、生育ステージはやや遅く、茎数も不足気味のほ場が多い。
- ◆出芽が遅れている場合は、ほ場全体に薄く入水し(フラッシング)、出芽を促す。
- ・苗の生育が揃ったら5cm 程度の水深を確保し、雑草防除のため土壌処理剤(初中期剤)を散布する(稲の葉齢 1.5 葉期が目安)。散布後の管理は、移植栽培と同様とする。